

林業ミニ情報 No.131

平成27年9月

- 1 山方林業研究会が関東・山梨林業グループコンクールで発表 … 1
(大子林業指導所 長山)
 - 2 民国連携による森林共同施業団地について …… 1
(常陸太田林業指導所 国谷)
 - 3 スギコンテナ苗育苗技術に関する意見交換会の開催について … 2
(水戸林業指導所 清水)
 - 4 コンテナ苗の梱包技術講習会で梱包方法を決定 …… 3
(水戸林業指導所 市村)
 - 5 神栖市土合小学校で森林・林業教室を開催 …… 4
(鉾田林業指導所 仲野)
- 〔林産情報〕 素材・製材品価格及び新設住宅建設の動向 …… 6
(林業技術センター 益子)

1. 山方林業研究会が関東・山梨林業グループコンクールで発表

去る7月9～10日に、神奈川県と全国林業研究グループ連絡協議会の主催による「関東・山梨ブロック林業グループコンクール」が神奈川県足柄上郡大井町で開催され、本県の代表として「山方林業研究会」（会長通野三郎氏ほか2名）が参加し、日頃の活動内容を発表しました。

山方林業研究会は常陸大宮市の山方地区において、原木マイタケの栽培普及と炭焼技術の習得と伝承を目標に活動しており、原木マイタケのほだ木作成の一連の行程と作成したほだ木の一部を市民に販売し栽培方法を指導している取り組み、及び平成12年から継続している炭焼きの活動について発表しました。特に、炭焼きについては平成23年の東日本大震災により炭窯が被害を受け、存続の危機に立たされましたが会員が一丸となって修復に取り組んだ過程を丁寧に発表しました。



発表する吉成事務局長

質疑応答では、原木マイタケほだ木1個の価格や（750円）炭の価格（4kg入り700円、10kg入り1,800円）、窯の火入れから止めるまでの日数（3日間）、その際の煙の変化（紫から透明へ）などについて多くの質問が飛び交いました。

今回は、7県の代表グループから発表があり、審査の結果栃木県がブロック代表として選出されました。当会は、惜しくも代表には選ばれませんでしたでしたが、参加した会員はこのような大きな大会で日頃の活動を発表でき貴重な体験ができたと言っていました。

当林業指導所では、今後も当研究会に対する支援を続けていきたいと考えています。

（大子林業指導所 長山 洋一郎）

2. 民国連携による森林共同施業団地について

去る8月20日（木）に、常陸太田市町屋町・春友町・茅根町地内の民有林と国有林を対象区域とした、民国連携による森林共同施業団地設定に向け、茨城森林管理署、常陸太田市、常陸太田市森林組合、県北農林事務所の4者で検討会を開催しましたので、現在の検討状況の概要を紹介します。

現在、検討を進めている常陸太田市の森林共同施業団地は、高鈴山の南西側に位置し、全体区域面積は824.0haで、国有林に囲まれた中に民有林が127.2haあり、所有形態は、個人、共有林、市有林となっています。民有林の整備内容については、皆伐3.0ha、搬出間伐21.5ha、保育（除伐）2.5ha、作業道4,000mを計画しており、森林整備推進に関する協定を締結することとなれば本県初となります。

森林共同施業団地を設定するメリットとしては、主に次の点があります。

① 効率的な路網整備

計画段階から連携することにより、一体的、効率的な路網整備が可能となる。

② 事業コストの低減

林業専用道，森林作業道，土場等の施設の相互利用が可能となる。

③ 木材の協調出荷

民有林と国有林の材を合わせてシステム販売することにより，有利な販売が期待できる。

④ 森林環境保全直接支援事業の要件緩和

国有林と合わせて一定の規模（5ha）を満たせば森林環境保全直接支援事業の対象となる。

森林共同施業団地は，全国で154団地（平成26年度末現在），362千ha（民有林159千ha，国有林203千ha）が設定されており，そのうち，関東森林管理局管内では，13団地10,554ha（民有林3,835ha，国有林6,719ha）を設定し，森林施業の実施に取り組んでいます。

なお，森林共同施業団地とは，森林管理署と地方自治体，森林組合等が森林整備推進に関する協定を締結し，民有林と国有林が隣接する地域の森林において，双方が連携して路網整備や間伐等の森林施業などを進める制度です。

当林業指導所としても引き続き，民国連携による森林共同施業団地の必要性等について，関係者と検討していくとともに，効率的な森林施業を推進していきたいと考えています。

〈整備計画〉

区分	民有林	国有林	計	備考
区域面積	127.2ha	696.8ha	824.0ha	
整備面積	27.0ha	299.4ha	326.4ha	
路網整備	4,000m		4,000m	



検討会の様子



作業道線形の検討

（常陸太田林業指導所 国谷 直樹）

3. スギコンテナ苗育苗技術に関する意見交換会の開催について

去る7月2日（木）に，マルチキャビティコンテナを使用し育成した苗木（以下「コンテナ苗」と言う）の生産に取り組んでいる本県と栃木県の種苗協同組合関係者，行政関係者等25名が参加し，コンテナ苗の育苗技術に関する意見交換会が，栃木県宇都宮市で開催されました（水戸林業指導所の林業普及指導員も参画した）。

コンテナ苗は、従来の裸苗に比べて植栽時期を選ばない、専用の器具を使用し植栽の省力化を図る事が出来るなど、低コスト造林に大きな期待が寄せられています。

今回は、栃木県におけるコンテナ苗生産の現状と今後の取り組みについての意見交換の主な内容を紹介します。



①栃木県では、平成 26 年 2 月の雪害（被害面積 1,500ha）及び桐生市の山林火災（被害面積 70ha）の早期復旧を契機に、育苗期間の短いコンテナ苗の生産に取り組むこととし、今後 3 年間で全てのスギ苗をコンテナ苗に切替える計画を立てている。

②現在 21 名の生産者がコンテナ苗生産に取り組んでおり、5 年以内には 100 万本を目指している。これを実現するための栃木県では独自の手厚い助成措置を講じている。



③コンテナ苗の植栽は、皆伐終了後すぐに植栽できるので造林の低コスト化が図れ、現場の森林組合からも、仮植の必要が無く経費の節減になると聞いている。

現地検討会の様子

④コンテナ苗の植栽に当たっては、裸苗の植栽方法と根本的に異なるため、専用器具を使用した植栽マニュアルを作成し、林業普及指導員を通じて森林組合等への指導を徹底している。

⑤コンテナ苗は裸苗に比べて小さいため、下刈り時の誤伐を恐れていたが、現在のところ特に問題は無いとの認識である。

⑥コンテナ苗の出荷については、前日に散水しておきビニール袋に入れた後、ダンボール箱に詰めて出荷している。これで根が乾燥することは無いとの認識である。

⑦コンテナ苗の生産には 1 年半～2 年を要するのが現状であり、さらにコスト低減を図るためには 1 年で出荷できる生産技術の開発が必要である。

今回の意見交換会は、本県におけるコンテナ苗生産に参考となる点が多く、当林業指導所では本県の林業種苗協同組合（特に意欲的に取り組んでいるコンテナ苗生産者）と今後の生産計画について議論を深め、引き続き技術講習会等を通して生産技術等に関する指導・支援を図っていきたいと考えています。

（水戸林業指導所 清水 勲）

4. コンテナ苗の梱包技術講習会で梱包方法を決定

去る 7 月 14 日（火）に、東海村の苗木生産者宅で県林業種苗協同組合主催のコンテナ苗の梱包技術講習会が開催され、コンテナ苗の出荷方法について検討を行いました。

コンテナ苗は造林コストの縮減が期待されることから注目されており、本県でも生産が始まっていますが、生産開始からの年数が浅く、出荷のための梱包方法がまだ確立さ

れていません。そこで、今秋の出荷に向けてスギコンテナ苗の梱包方法を検討しました。

当日は、コンテナ苗の生産者、種苗協同組合、林業技術センター、当林業指導所の職員計10名が集まり、梱包方法の検討を行いました。

その結果、マルチキャビティコンテナから抜き取った苗木10本を一束とし、根鉢部分を半透明の取っ手付ポリ袋に入れて縛り、ダンボール箱に詰めて出荷することとしました。出荷用ダンボール箱については、実際に束を作って数種類のダンボール箱に入れて大きさを検討し、縦35cm×横80cm×高さ45cm(約150本入り)に決定しました。今秋、コンテナ苗は今回決定した方法で梱包・出荷されることとなります。

当林業指導所では、優良苗木の供給のため、今後も積極的に情報を提供するなど苗木生産者を支援していきたいと考えています。

(水戸林業指導所 市村よし子)



検討会の様子



箱詰めの様子

5. 神栖市土合小学校で森林・林業教室を開催

去る7月3日(金)に、神栖市立土合小学校の5年生を対象に当林業指導所の林業普及指導員による森林・林業教室を開催しました。

森林・林業教室は、森林湖沼環境税を活用した事業として、県内の児童に森林・林業に対する理解を深めてもらうことを目的に実施しているもので、当日は、森林と林業に関する講義を行ったあと、木工工作体験(マイ箸づくり)を行いました。

まず、講義では、世界や日本の森林の現状、神栖市の森林について説明をしました。その中で、「日本の森林率は先進国の中で第2位である一方、神栖市の森林率はわずか3%しかない」ということ等を説明すると、子供達は皆驚いた様子でした。

また、木工工作体験では、スギの間伐材から作った箸木地をカンナと紙ヤスリで削ってお箸を作りました。カンナの使い方に手間取る児童も多く、当初想定していた時間内に完成しない児童もいましたが、学校の協力で授業時間を調整していただいたため、最終的には全ての児童が無事にお箸を完成させることができました。

最後に感想を聞くと、一様に「楽しかった」と話しながら、自分で作ったオリジナル



講義の様子

のお箸を大切に持ち帰っていました。

今回の森林・林業教室に参加した子供達はもちろんですが、子供達が家に帰り家族と話しをすること等によって、森林・林業に対する理解が益々広まることを期待しています。

当林業指導所では、管内の各小中学校からの要望に応じて、随時このような校内体験学習を進めていくこととしています。

(鉾田林業指導所 仲野 繁)



箸づくりの様子

〔林産情報〕

茨城県の素材・製材品価格(平成27年)

単位：円/m³

区分	樹種	規格	種類	H26年 平均	H27年 時点平均	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
素材	国産材	スギ	3.00 × 14~20	柱材	13,900	10,300	13,400	12,700	11,800	10,000	8,200	7,900	7,800							
			3.65 × 18~28	中目材	14,200	10,400	12,900	12,700	11,800	9,200	8,900	7,900	9,100							
			4.00 × 8~13	小径材	14,900	12,400	14,600	14,800	14,400	13,200	10,500	9,800	9,200							
	ヒノキ	3.00 × 14~20	柱材	17,700	13,800	15,900	15,900	14,800	12,900	12,000	12,100	12,800								
		4.00 × 18~28	中目材	21,400	15,500	18,600	18,200	16,100	14,600	13,400	13,000	14,900								
		4.00 × 8~13	小径材	16,400	12,700	14,800	14,400	14,600	11,700	10,900	10,400	11,800								
	外材	米ツガ	11.00 × 径・36	コースト	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000							
			11.00 × 径・28以下	j・ソート	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000						
		米マツ	11.00 × 径・40	カスケード	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000						
			11.00 × 径・36	コースト	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000					
		カラマツ	4.0	込	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000						
			3.8	並材	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000						
製材	国産材	スギ	3.00×10.5×10.5	柱①	55,500	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000							
			4.00×10.5×10.5	柱②	50,800	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000						
			3.65×1.4×10.0	ヌキ	55,900	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000						
			3.65×3.6×4.5	タルキ	52,900	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000						
			3.65×4.5×10.5	敷居・鴨居	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000						
			4.00×9.0×9.0	母屋	42,200	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000					
	ヒノキ	3.00×12.0×12.0	柱①	111,700	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000							
		4.00×12.0×12.0	土台	110,800	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000							
		4.00×4.5×10.5	敷居・鴨居	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000	380,000						
	外材	マツ	4.00×12.0×24.0	平角	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000						
			米ツガ	3.00×10.5×10.5	柱	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000					
		米マツ	4.00×9.0×9.0	母屋	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000						
			4.00×12.0×24.0	梁	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000					
		米ツガ	4.00×12.0×12.0	注入土台	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000					
		エゾマツ	3.80×3.0×4.0	タルキ	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000					
	集成材	3.00×10.5×10.5	柱	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000					

注) ヒノキ柱①は、平成11年以前10.5cm角
 集成材は、1本あたりの単価をm³に換算
 カスケード：大陸中央部カスケード山脈から産出される目節みの材
 コースト：太平洋沿岸部コースト山脈から産出される目節みの材
 j・ソート：北米における末口径11インチ下の細丸太、または日本向け丸太

茨城県の新設住宅建設の動向

単位：戸

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
26	着工数	1,931	1,969	1,805	1,872	1,607	1,565	1,978	1,716	1,858	2,191	1,762	2,117	22,371
	木造数	1,523	1,407	1,308	1,145	1,220	1,256	1,282	1,218	1,307	1,362	1,297	1,306	15,631
	木造率	78.9%	71.5%	72.5%	61.2%	75.9%	80.3%	64.8%	71.0%	70.3%	62.2%	73.6%	61.7%	69.9%
	累計	1,931	3,900	5,705	7,577	9,184	10,749	12,727	14,443	16,301	18,492	20,254	22,371	
27	着工数	1,623	1,795	1,862	1,772	1,782	2,134	1,957						12,925
	木造数	1,127	1,151	1,098	1,316	1,298	1,456	1,399						8,845
	木造率	69.4%	64.1%	59.0%	74.3%	72.8%	68.2%	71.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	68.4%
	累計	1,623	3,418	5,280	7,052	8,834	10,968	12,925	12,925	12,925	12,925	12,925	12,925	

